

東京七座会だより

平成21年春号 (No.6)

風薫るさわやかな季節となりました。故郷のゴールデンウィークは桜の満開が過ぎ山々は新緑に彩られ、花々は一斉に咲きほこる頃でしょうか。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

昨年のふるさと会は、東京七座会が6月29日に15名の参加で麻布『霞会館』で開催しました。第20回となった記念の会ではゲストに東京小猿部会(七日市地区)会長の畠山末広氏を招き、余興に三味線や踊りの披露がありました。

東京鷹巢会は11名の参加により、例年通りの九段下『ホテルグランドパレス』で11月16日に開催されました。

会員の動向については、退会者1名・住所不明7名で現在142名の会員数となっております。

退会者	不明者		
仲村孝志 (死亡)	小笠原弘美	成田 寛	三浦キサ(木村)
	熊谷勇蔵	藤田 敏	
	佐藤賢四郎	葦山栄子(熊谷)	

(順不同敬称略)

亡くなられた仲村さんに、ご冥福をお祈り致します。(合掌)

転居先不明となられてる方々については皆様からの情報をお寄せ下さるようお願いいたします。



【H20年東京七座会】

雨の日の開催になりましたが、六本木の隠れ家のような場所に満足しながら二次会の六本木ヒルズ(喫茶)に感嘆した日となりました。

畠山氏による踊り(写真下)



北秋田市前山(旧鷹巣町)の戸澤茂男さんのお宅では、10年ほど前からしめ飾り用として、稲穂が赤茶、黒、紫の3種類の古代米を栽培。その稲穂を使っしめ飾りを作り続けています。「昔は米俵や馬のワラ靴などをよく編んだが、しめ飾りなど簡単だ」とおっしゃる茂男さんは1月2日で満86歳、ワラを打って編む作業を担当しています。おばあちゃんのアサさん(83)は古代米の田植えから稲刈りまで。長男で会社員の元弘さん(56)は主に田んぼの管理を担当し、奥さんの澄子(56)さんが、ミカンや黄金の米俵などの飾りものを付けて

七座のあれこれ

県政だより かぶる akita



【H20東京鷹巢会】

参加者が少なく苦慮していますが、久しぶりの再会に皆の元気な顔に話が尽きません。

完成となります。「これは4人の合作。おじいちゃんとおばあちゃんが元気だから、出来ることです」と澄子さん。昨年も約200本を仕上げ、近くのJA直売所などで販売しました。正月には床の間に代々伝わる掛け軸を飾り、孫を含めた3世代で正月を祝います。

《後記》戸澤茂男さんのしめ飾り記事は『県政だより』の記事です。平成16年12月11日(土)の毎日新聞夕刊全国版の一面にも写真付きで一度掲載されました。

新年を彩る 古代米の穂

しめ飾りづくり

秋田県鷹巣町前山の戸澤茂男さん(81)方で、古代米の稲穂を使ったしめ飾りの製作が続いている。赤みを帯びた穂から作る飾りは珍重され、今年作る200個はすべて予約済みという。

いた田に植えてみたところ、思いがけず生育した。戸澤さんは農耕馬用の縄(縄作り)をした経験を生かし、2年前にしめ飾り作りを思い立った。戸澤さんが編んだ稲穂に長男の妻澄子さん(52)が梅の造花などの飾りをつけ、1個あたり30〜40分で完成させる。戸澤さんは「喜んでくれる人がいて作りがいがある」と話す。

【田村彦志】



自家栽培した黒米(手前左)や赤米(同右)の稲穂を使い、次々と出来上がる古代米のしめ飾り—秋田県鷹巣町で、岩下幸一郎写す